

蛇口をひねるとカルピスが出てくる「カルピスじゃぐち」。子どもの頃に夢見た光景が、ホテルや施設向けのサービスとして本格事業化されました。中身はおなじみのカルピスでも、蛇口から注ぐだけで特別な体験になる。新商品を作らなくても提供の仕方を変えれば新しい価値になるという、ワクワクする事業展開ですね。

今シーズン終了



朝夕の冷え込みが増し、日ごとに秋の深まりを感じる頃となりました。どこからともなく漂う金木犀の香りに心とほほえみますね。 過ごしやすいこの季節を思う存分満喫しましょう。

さて、我らがカープ。

2026年シーズン幕を閉じた。 最終順位はセリーグ4位。 61勝78敗4分、勝率.439。

2025年の5位から順位を一つ上げたものの、勝ち越しには届かず、3年連続のBクラスという悔しい結果となった。 今季は色々ゴタゴタとし、決して満足できる良いシーズンではなかった。

打線の課題、投手陣の奮闘、若手選手の成長。 そして来季へ向けて何を変えていかなければならないのか。 2026年のカープを振り返るうえで避けて通れないのが、打線の問題だ。 チーム打率は.223。 総得点は431点。 いずれもリーグ最下位だった。

出塁率も.288にとどまり、攻撃の起点となる走者を十分にさせなかったことが数字に表れている。 もちろん、ホームランだけが野球ではない。 単打で走者を出し、進塁打でチャンスを広げ、タイムリーで返す。 そうした攻撃ができれば長打が少なくても得点は奪える。 しかし今季のカープは、チャンスを作ってもあと一本が出ない試合が目立った。 投手陣が粘り強く抑えていても、打線が援護できなければ勝利にはつながらない。 接戦をものにするためにも、得点力の改善は最優先課題といえる。 来季は単純に安打数を増やすだけでなく、得点圏での攻撃や出塁率、長打力など、得点につながる攻撃をどう増やすかが重要になる。

打線が苦しんだ一方で、投手陣は一年を通してチームを支えた。 チーム防御率は3.39でリーグ5位。 十分な数字とは言えないが、接戦を作ろうとする投手たちの奮闘もあった。 その中で先発陣を支えた一人が床田だ。 防御率は2.76を記録、厳しいシーズンの中でも、先発投手として安定した投球を見せた。 また、リリーフでは、森浦が27セーブを挙げ、終盤を任される存在として役割を果たした。 投手陣には評価できる部分があるが、チーム全体の防御率はリーグ上位には届かなかった。 来季に向けては、先発投手が長いイニングを投げることに加え、救援陣の負担がどう分散するかも大切になる。 投打がかみ合うチーム作りが求められる。

新井監督と球団の判断が問われるオフシーズンになる。 単に「来年こそ」と願うだけでなく、何を変え、何を伸ばすのが重要になる。 カープには投手陣の力を生かす野球と、若手が成長してチームを支えるという伝統がある。 その強みを取り戻し、2027年は変化を実感できるシーズンにしてほしい。



頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたを そしてカープを 全力応援致します！

裏面もご覧ください。